

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てリターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「新潟地名考」

ついにやってしまったか、香川県。読者に香川県関係者がいたらすまねがご容赦ください、香川県。以前香川県がうどん県に改名するかもしれぬ、という情報を耳にしました。もし、これがわが新潟県ならどう改名するのか？と心配していたところ、ホントにいつのまにか観光協会がうどん県にした、ということを知りびっくり仰天。

観光PR戦略とは言え、なぜにそのようなことまでするか、香川県。地名はその県にとって歴史と情報上の重要なシンボルでもあり、住む人・訪れる人にとっても愛着ある「らしさの象徴」ですよ！と思っておりました。これを機会に、話題性を期待したこの手の改名が全国的に広まってしまうとしたら…。うどんに対抗して、こっちはきしめん県だ、うちはそば県だ、やれ、そうめん県だのとあちこち麺県が生まれ、ややこしいしメンドウです。その上、新潟県にも波及したとしたら一大事。へぎそば県？こしひかり県？いや、もともとコシヒカリは福井県が育成地だから、こりゃまずい、ここで福井県と揉めたくありません。笹団子県？いえいえ、県内では今でも新潟土産でどこでも売っている笹団子も、実はかつては佐渡をはじめ糸魚川等西日本文化圏と頸城の一部では作らなかったのもふさわしくありません。幸い新潟県は広いし、産物も多いということでコレだ！という名称をひとつに絞るのがしかも困難なため当然改名の動きはないようです。

やれやれ、とほっとしながら気になるのは新潟という名称。「新しい潟」というくらいだから、新しい地名でしょうか？時代は遡ること昔々の大昔、697年には「越後国」の名がみられます。その以前の「越」の国を上方から近い方から、越前、越中、

越後と三分割した結果です。ではこの越後の国がいつ「新潟」になったのか？新潟という地名の古い記録は、1520年（永正17）の戦国時代、「新方」という地名が高野山の過去帳に残っています。古文書等古い記録をみると「潟」に限らず当時の人は割とアバウトというか大らかに略字を使っていたようで、おそらく「方」は「潟」の略字であったと推測されます。今でも新潟の「潟」をやっや面倒だてばと「泻」に略して書く人もいるように、画数の多い「潟」が「方」として記録されたのもうなずけます。実際、潟を「湯」と履歴書に書いた人を知っています。また1564年（永禄7）に京の醍醐寺の僧侶が「ニイカタ」に逗留したとの記録もあります。高僧も、潟の字は面倒だったに違いありません。さて当時は信濃川と阿賀野川の氾濫が多々あり、地形の変化で形成された新しい湊が「新潟」でした。この湊の名称が地名、県名になったのです。という背景を考えれば、歴史ある名を団子や米や酒の名称に改名するのは気が引けます。高僧も嘆きます。

とはいえ、この改名の気運が市町村に飛び火して、塩引き市、あやめ市、謙信市、フォッサマグナ市、金物市（以上県内）やら、なまはげ市、イタコ市、ホテルイカ市、桃太郎市、竜馬市（以上県外）になったら市場じゃあるまいし、こりゃあんばい悪いな、と余計な心配しております。

